

裏千家青年奉仕隊 レポート
日印文化交流使節

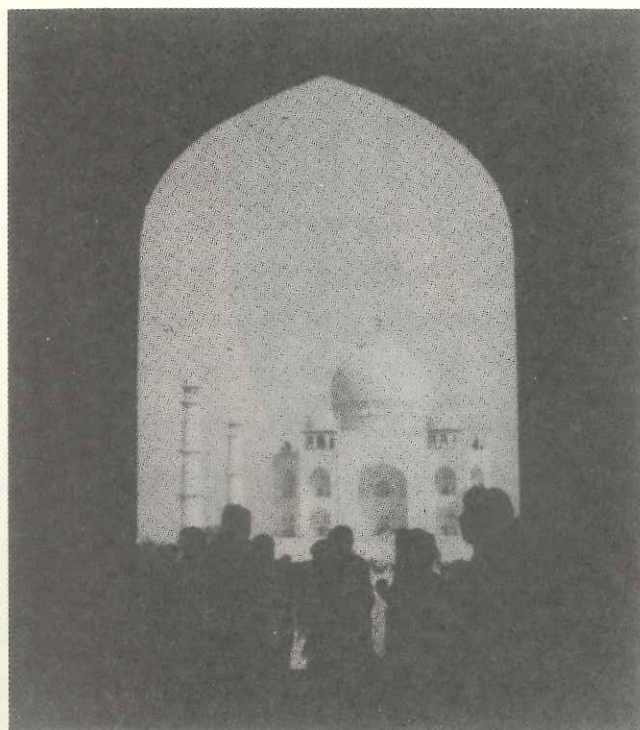
「東洋文化の源流を訪ねて」



1985年2月17日～2月24日

主催／ 社団法人 茶道裏千家淡交会 総本部
茶道裏千家淡交会 青年部 北信越ブロック

「東洋文化の源流を訪ねて」



(タージ・マハル)

1. 主 旨

鵬雲齋お家元のご提唱される、お人の思想を踏まえた「一盃からピースフルネスを」の具現化のために、世界各国へ「裏千家青年奉仕隊」が派遣されてきました。

古来日本人は、自国に唐土と天竺を加えて世界と考えてきましたが、中国への「青年奉仕隊」は多大の成果をあげる事ができました。

この度派遣されます「裏千家青年奉仕隊日印文化交流使節北陸信越ブロック隊」は、この青年奉仕隊の一環として、仏祖の地を訪ねて釈尊を生んだ大地と、彼地に現代を生きる人々とのふれあいを通じて、印度との文化交流をはかり、次代を担う青年茶道修道者の国際的視野を養い、人格の形成をはかることを目的とします。

らしぶりを、そしてニューデリーでは、「インド門」「大統領官邸」赤砂岩造りの政府庁舎、円形のどっしりとした国会議事堂など、整然とした計画都市を目にし、上流階級とその他の階級の生活レベルの激しい差の一端を垣間見ることができる。

○ VARANASI

「VARANASI」
「ワーラーナシー」
このことかおわかりになりますか？

日本の書物では「バナレス」となっていますが、これは日本だけの呼び方で、正式には「ワーラーナシー」又は「バナーラス」とも呼びます。

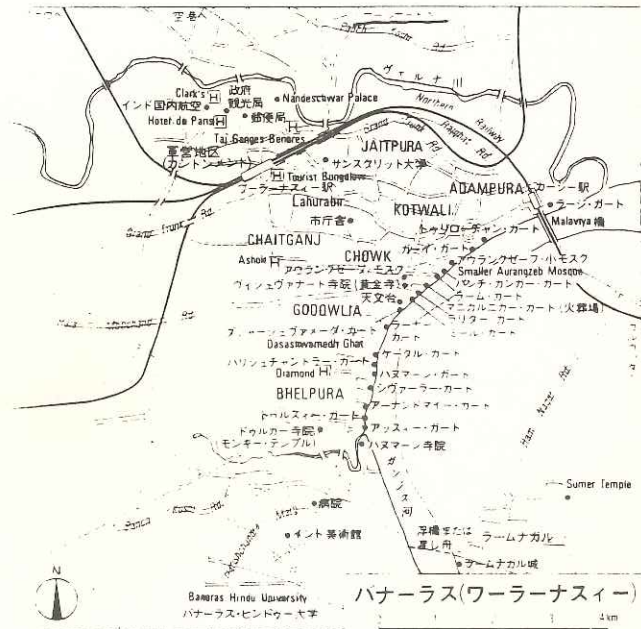
バナーラスは、ガンジス河中流域の交通上の要地にあり、銅、綿などの特産物を持つと同時に、シヴァ神を祀

る町として古くから重要な聖地であった。紀元前一千年紀には既に大きな集落をなしていたらしく、紀元前八世紀にはカーシー族の国の都としてまず知られた。その後多くの変遷を経て、18世紀初め、ムガル朝の勢力が衰え、再びヒンズー教徒の支配する町となって復興した。今日残っている寺院、館、沐浴場などの大半は、この時以降に造られたものである。多くの寺院と沐浴場をもつ聖地であり、サーリーや真鍮細工の伝統工芸を守っている町でもある。

「バナーラスを見ずしてインドを語るなかれ」といわれているこの町では、まず早朝ガンジス河の沐浴風景を目にする。「わが魂はガンジスに生き、ガンジスに死す」と信じているヒンズー教徒は、このガンジスの聖水で沐浴することを生涯の願いとしている。

対岸からのぼる朝日の中、ガンジスの水に浸って敬虔な祈りを捧げる姿をみると、身のひきしまるような深い感動がわきおこります。

数多くのガート、旧藩主の館、モンキー・テンプル、黄金寺など無数の寺院、ガンジス河に向かってただひたすらに歩く人・人……ねそべる牛、餌をさがす犬、ロバ・馬・羊、物売りの子供達、客引きの大きな声…… 聖俗いりまじっている不思議な町。真鍮細工の店や、サーリーの織物工場ですと一息する。



◦ SARNATH

日本人の心のふるさと ～お釈迦様の足跡～

バナーラスの近くには、釈尊のゆかりの地が多く、特に4大仏跡とよばれる巡礼の地があります。

それは、釈尊が生誕したルンビニー、悟りをひらかれたブダガヤ、はじめて説法されたサルナート、そして入滅されたクシナガラです。今から2500年ほど前喧噪の町バナーラスの町を出て一面の田畑の中を北東に約10キロ、並木ごしに巨大なストゥーパが見えてきます。サルナートの遺跡は手入れの行き届いた芝に囲まれ、いかにも釈尊がはじめて法を説いた地にふさわしいたたずまいを見せています。かつて1500人の僧がいたという大僧院の跡のくずれた石垣、礎石、台所のカマドのあと、瞑想にふけたと思われる狭い僧坊。近年になって建てられたビルマ寺や、シナ寺、フレスコ画の美しい日本寺などが広大なひろがりの中にみられます。

私達、裏千家青年奉仕隊は、この釈尊の初転法輪の地、サルナートのダメーク・ストゥーパの前で御供茶をさせていただきました。仏に供え、巡礼に来ていたチベットの人々や欧州人、インドの人々にもさしあげ、そして私達もいただきました。

◦ KHAJURAHO

楽しい村、カジュラホ

9～13世紀まで中部インドに強大な勢力をもっていた月の神、Chandraの後裔と称するチャンデーラ王家の遺産・寺院のある町。

畑や森の間から、山か峰のようなものが見えてくる。実は寺院の高塔で、チャンデーラ王家の最盛期であった(950～1050年)の100年間に建てられたもので、85あったものが、現在は22しか残っていない。

さて、その寺院に近ずくと、寺院の壁にはすばらしい彫刻が……………。

チャンデーラの人々は、何ゆえにこのような彫刻を寺院にほりつづけたのだろうか……？又、どんな方法で建てていったのだろうか……………。

世界的に有名な彫刻の寺院と共に生きているたった3500人たらずのカジュラ村、なぜか。



仏教とお茶のルーツ・インド

茶の故郷は中国と言われるが、茶の原産地はインドではないだろうか、我が国に中国より茶が輸入されたのは奈良時代の遣唐僧達によって持ち帰られたのである。当時、茶は現代のような茶ではなく団茶（茶の葉を臼で粉にして、これを練り固め団子状のもの）と呼ばれたようである。

遣唐僧伝教大師（最澄）が西暦805年近江坂本の日吉神社に植え、弘法大師（空海）も同様に持ち帰ったのであろうが、茶としてではなく薬草として持ち帰ったのではないだろうか。なぜならば山岳仏教に非ずと言ってよいほど薬種を製造している。現在も〇〇〇の陀羅尼と言って寺院に伝わっているのである。（漢方薬）

当時の嵯峨天皇も茶の栽培を命じられたようであり、空海とも非常に深い関係を持っている。

鎌倉時代初期

栄西（建仁寺開山）は1191年中国より茶種を請来し、後日梅尾高山寺住職明恵上人に授け山内に植えた。又中国僧隠元も中国より持ち込み、宇治の黄檗山万福寺を開山した。このようにお茶は仏教によって請来され広められて来たのである。中国とインドとはどうなのであろうか？中国で最古の茶書と言われている「茶経三巻」唐時代の文人陸羽によってあらわされた。その書中に「茶は南方の嘉木なり」とある。

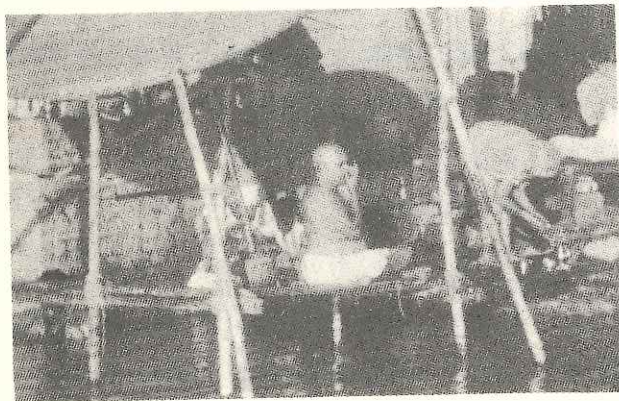
日本と中国の関係と同じように、中国の僧、皆様もよく知っておられる西遊記の玄奘三蔵が苦難を越えて大蔵経を請来し、又龍猛、善無畏三蔵（西暦716年）（大唐開元4年）のように来唐している僧もいる。このように行来をしているうちに薬である茶というものが伝わり、それが日本に入ってきたのではないだろうか。中国茶、日本茶、紅茶も、もともとは同じ茶の木からつまれた葉が原料です。

仏教の面では経典はもちろんの事であるが、実相（行法）に於ても平安仏教の源がインドであると言っても過言でない程である。護摩修法あり瞑想あり、ガンジス河畔ベナレスの沐浴等がある。ベナレスの沐浴は誰が見ても不衛生だと思ふであろう。事実水は濁り、河辺で死体が焼かれ、その側で洗濯をしている。我々では考えられない事である。しかし彼らにとってガンジス川に対する信仰は絶対的である。沐浴し、瞑想し、祈り、歴史の中で今日も洋々として流れ続けている。

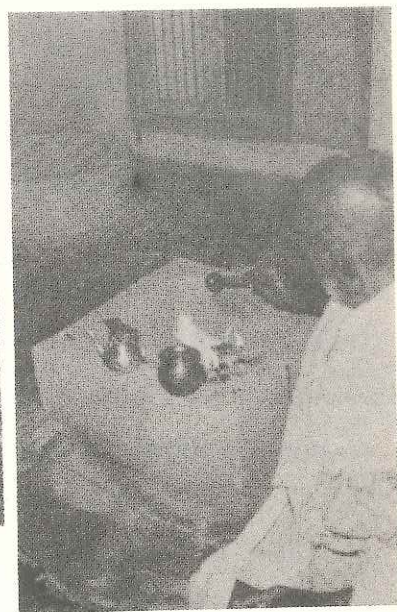
此の点は皆様が渡印して眼で理解して下さい。(井出記)



ガンジス河の日の出



ガンジス河畔で悠々と調息・瞑想する姿



最古の護摩法を修するバラモン・
リシケーシ

。AGRA

インド観光のハイライト タージ・マハール

デリーからジャムナ河沿いに200キロほど下ったところにある町、空路35分。

ここは、まさに夢の町。そう、世界一神々しい美しさをもつ建物、タージ・マハールのある町。そして、1526年からムガル朝の都として栄えたものの、100年で見捨てられてしまったという意味でも夢の町。

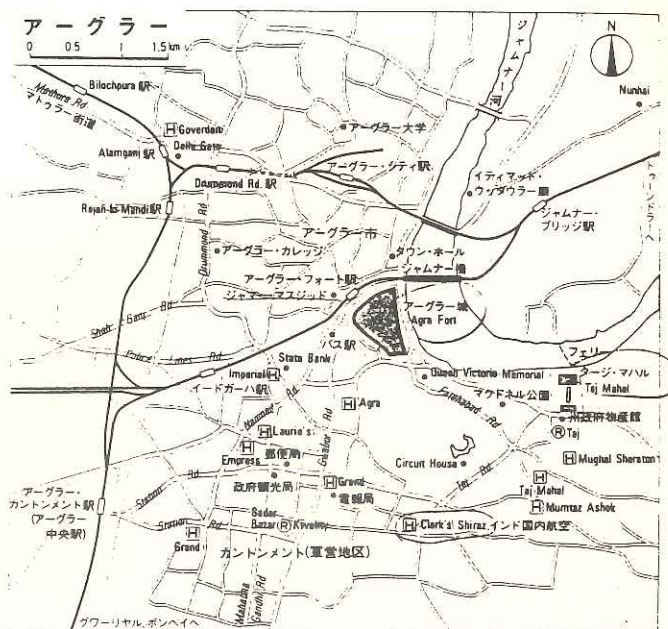
見どころは、なんといっても白亜に輝くタージ・マハール。ムガル朝第五代皇帝シャー・ジャハーンが、その愛妃ムムターズ・マハールへの想いをこめて造らせた大理石の白いタージ。そして、ジャムナ河をはさんで対岸に築かれた皇帝の居城アグラ城。

シャー・ジャハーンと愛妃ムムターズ・マハールの愛の物語りにすっかり心を奪われてしまう町なのです。

一口知識

インド式「OK」は、首を横に振る。

会話中に首を横に振ったり、顔を斜めにして「アッチャー」などという時は「はい」「わかった」という意味。「ナマステ」と「アッチャー」使ってみよう!! 但し首の振り方をまちがえないように。



裏千家青年奉仕隊日印文化交流使節

北信越ブロック隊 日程記録

1985年(昭和60年)2月17日(日)～24日

時間は全て現地時間で記す

時差	日本	}	1 H	
	香港			
	バンコク			1 H
	インド			1.5 H

2月

17(日)

出
発

小松空港まで青年部有志の方々やご家族の見送りを受け、小松発9時50分の飛行機で羽田へ(10:55着)

東京は快晴

他県からのメンバーも集まり、2時20分バゲージを預けたあと、3時前VIPルームに37名全員が顔を合わせ結団式をする。

4時過ぎAI301に搭乗 4時25分 離陸

軽食のサービスあり

現地時間PM8時半 香港着 飛行機着陸の震道で酸素マスクが4・5本垂れ下がる。

香港空港内で休憩。 インドで飲むお酒をそれぞれが免税店で買う。

PM9:30 搭乗 離陸 バンコクへ

夕食のサービス チキンカレーをメインにサラダ、パン、チーズ、デザート coffee or tea

PM11時すぎバンコク着 気温27℃

18(月) AM0時半 バンコク発

軽食はオープンサンドイッチ(機内食)

深夜2:45 デリー着 日本大使館の岡野氏が出迎えて下さり、入国手続の便宜をはかって下さる。それでも尚入国手続が終わるまで約2時間かかる。

(DELHI)

AM4:40 バスに乗車

乗車の際、一人一人にマリーゴールドの花輪を首にかけてくれた。

AM5時過ぎ Hotel Kanishika に到着

18日の予定を聞いたあと各室へ

快晴 AM9時半 morning call

10時 朝食 プレーンオムレツ チリビーンズ添え

そのあと自由時間

お金をルピーに両替え。 ホテルでの両替は50US\$以内 人数的に時間がかかるので添乗員の木村さんが一括して市内の銀行で皆の希望する額を両替してくる。

PM 1時 昼食 バイキング

PM 2時 バスで市内観光に出発

明日の大使館のお茶会の準備のため数人は大使館へあいさつや下見に。

クトゥブ・ミナール、ジャマー・マスジッド、ラージ・ガート、オールドデリーなど観光する。

5時ごろ 土産物屋に寄りコーラのサービスを受ける。

6時ごろ ホテルへもどる。

PM 7時過ぎ 希望者を募り、インドの舞踊を見にバスで劇場へ。

舞踊観覧

8時半すぎホテルへもどり夕食

スープ、ライスの上に白身魚のトマトソースかけ中華風、アイスクリーム、のみ物

19(火) 快晴

AM 7:00 morning call

7:45 朝食 卵の料理

8:30 日本大使館でお茶会をする人達 出発

(横井、新田、堀、井出、大島、太田、玉木誠、玉木恵、堀内、吉井、小山、下出)

日本大使館茶室では10時から15名のお客様にお薄をさし上げる。

10:30 IICでのお茶会のため全員着物を着てホテルを出発

IICで準備開始。まず芝生の庭に折りたたみイスをひろげる作業から...

12時近く大使館でお茶会を終えたメンバーがIICに着き、一緒に準備を進める。

12時45分～1時20分 IICの庭でバイキングの昼食

PM 2時20分 吉井氏のあいさつでお茶会開始

御園棚にてデモンストレーションと呈茶。 デリー副市長、その他のインドの方がお点前に挑戦。 お客様は160～170名

TVニュース、新聞社など報道陣がお茶会の様子を撮影

4時ごろから片づけはじめる。

ガーデンの一隅でビュッフェ式の tea time

PM 5時 ホテルにもどる

PM 7時 バスでTaji Palace Hotelへ

大使館招待の晩さん会

素晴らしくゴージャスなホテルで大使館の人達6名と一緒にバイキングスタイルでお

いしいインド料理をいただく。

横井さん、新田さん、堀さん、吉井さんは日本大使館に招待される。

帰途、VIPのお通りとかでバスは横道に入り一時停車

10時近くホテルへもどる。

大使館でのお茶会もIICでのお茶会も成功裡に終わる。たくさんのインドのお客様、在印の日本のお客様に喜んでいただけた。

IICのお茶会では、一人のインドの年輩のご婦人からバラの大輪3つを花束にしてプレゼントされた。

御園棚一式、お茶碗(各自持参したもの)その他の茶道具を大使館に寄贈し、皆の荷物が軽くなる。

20(水) 快 晴

デ
リ
ー
か
ら
ベ
ナ
レ
ス
(VARA
NASI)
へ

AM 4:30 morning call 眠い!

5:15 朝食

6:00 ホテル発 デリー空港へ

7:30 ベナレスへ向けて離陸の予定が相当時間遅れるとの情報

10:30 やっと飛行機に塔乗。ところがすぐに離陸せず。機内に乗り込んだ人数とバゲージの数が合わないらしく出発できないらしい。

1個持ち主のわからないトランクがあり、乗務員がトランクをかかかけて機内を回る。 どう解決ついたのか?

やっと

11:40 に離陸 いかにもインド時間である。

12時すぎ アグラ空港

パンとフルーツサラダの軽食が出る

↓

1時半 カジュラホ 着

1時45分発 空港発

↓

2時ごろ目的のベナレス 着

ヒコーキの遅れにより、予定の観光はなし。

すぐ空港からバスに乗りサルナートへ

サ
ル
ナ
ー
ト
SARNATH

ダメーク塔前で堀先生、井出さんがお供茶し、メンバーはもちろん、観光に来ていた人もみんなお相伴。

鹿野苑を散歩、見学

考古学博物館見学

PM 5:50 Clark's Varanasi Hotel に到着

PM 7:30 夕食

21 (木) 快 晴

ベ
ナ
レ
ス

- AM 5 : 00 morning call
- 5 : 30 朝 食
- 6 : 00 バスでガンガーへ向け出発

15分~20分ほど走ったところでバスを降り、まだ明けやらぬベナレスの街中を歩き川岸へ。ダサーシュワメド・ガート (Dasashwamedh Ghat) で二艘の船に分乗しガンガーを遊覧。

ガンガーの日の出を拝む

我々の船に土産物売りの船が何艘も次から次へと寄ってきて土産を勧める。乗船した所にもどり船を降り、街の狭い狭い小路を物売りでまわりつく子供や大人をかき分けながらヴィシュヴァナート寺院 (=ゴールデンテンプル) へ。さらに街中の小路をめぐるバスに乗車。ホッとする。

- AM 8時すぎ クラークスホテルへもどる。
- AM 9時 織物工場へ出向く
毛織りの工程を見学した後、買物。 サリーの買物に女性達は真剣な目。

- 10時半すぎホテルへもどる
- 11時半 昼 食
- 12時半 バスで空港へ向け出発

ベ
ナ
レ
ス
か
ら
カ
ジ
ユ
ラ
ホ
KHAJU
RAHO
へ

- PM 2時近く 離 陸
機中 軽食のサービス
- PM 3時過ぎ カジュラホ着
Hotel Chandla へ
それからは自由時間 寺院見学、野点、昼寝、水泳、テニス、買物、
バトミントン 等思い思いに過ごす
- PM 8時 夕 食

今日は福井の太田幸子さんの誕生日

茶会供茶成功のごくろうさんパーティを兼ねる。

横井先生、新田先生の祝辞。ブラウスとスカーフをプレゼント。小さな生花のブーケもプレゼント。

特注のバースデーケーキ、ホテルからの花束のプレゼント

太田さんの喜びの力強いごあいさつもあった。

夕食後、ホテルの広い庭に出て星のまたたく空を見上げながら歌ったり、踊ったり。

全員童心にもどり、今日までのあわただしい日程の疲れをいやす。

このホテルは広い敷地の中、とても清潔な感じ。明るく設備は整っており素晴らしい。

22(金) 快 晴

カ
ジ
ユ
ラ
ホ

7:30 morning call
8:15 朝 食
9:00 寺院見学に出発

西の寺院群では日本語でとても面白く説明してくれる案内人がいて笑いながら、また彫刻の素晴らしさに感嘆しながらお寺を巡った。何ととってもミトゥナ像が印象的。

そのあとバスで東の寺院群へ

博物館はマンゴの大木の下、建物はなく青空の下仏様を彫った石が置いてあるといったプリミティブなもの。

寺院の一隅で結婚式が行われているのに出会う。

12時半 ホテルで昼食

PM 1時半 空港へ向け出発

カ
ジ
ユ
ラ
ホ
か
ら
ア
グ
ラ
A
G
R
A
へ

3時半 塔乗しアグラへ向け離陸
4時半 アグラ着

Clarks Shiraj Hotel へ

7時半 夕 食

夕食前に街の土産物屋に買物に行った人もいたし、リクシャでチャイを飲みに出たグループもあった。

日本に着いてから知ったのだが堀内さんのお父様がお亡くなりになったとホテルに連絡が入ったが、ここから日本への連絡はとれなかったとのこと。

23(土) 快 晴

7:30 morning call

8:15 朝 食

9:00 アーグラ城、タージマハル見学へ出発

アグラ城からジャムナ河を見下ろしていた時、川沿いの道路をお葬式の列が歩いているのが見えた。

10時半ごろ タージマハルへ

タージマハルの美しさに感激

外観の美しさ、内部の細工の素晴らしさ。

12:30 ホテルにもどる

PM 1:15 昼 食

- 4 : 30 アグラー空港 離陸
- 5 時すぎ デリー空港 着
- 5 時 45 分 セントラルホテルで出発までをすごす。
- 6 時 15 分 夕 食
- インドでの最後の夕食
- ルピーを全部はたいてビールを注文
- ここで二日目に注文した紅茶（お土産用）を受け取る
- 小は 5 U S \$
- 大は 10 U S \$

- 7 時 解団式を行なったあとセントラルホテルを出発 デリー空港へ
- 空港で前に注文したお土産用のカレーを受け取る。
- 1 箱 10 ルピー
- 今回の友好茶会のために、インドで大奮闘し多数の動員をして下さった日本大使館の岡野氏 U T S のチャダお見送りにみえる。
- 塔乗の際、塔乗券が 2 枚あまるという不思議なことあり。
- 9 時過ぎ デリー空港 離陸
- バンコクを経由し香港へ
- 香港の空港で最後のお買物

24 (日) 大阪空港 AM 11 : 50 着

成田まで行く人達と機内でお別れ

大阪空港でバゲージを受け取る際、井出宝泉さんのが出てこない。どれだけ待っても出てこない。

井出さんの荷物は成田まで行ったようだ。

あきらめて皆で朝食をとる。

石川・高岡組は PM 2 : 40 の「雷鳥」で。その先の列車で帰った人達もある。

大阪は薄曇の空 寒い

駅で東京 - 新大阪間の新幹線は雪のため 15 分 ~ 20 分遅れているとのアナウンスが聞こえた。

それぞれ雪の散らつく故里へ向かった。

交 流 使 節 団 組 織 図

顧問 名誉団長 相談役 団長 副団長 セクレタリー	新堀吉井 下麻玉堀 玉太	井田井出 出生木内 木田島	克嗣 妙宝 健正 汎恵 幸正	己朗 仙清 泉二 人誠 子子 子子
--	--------------------	---------------------	----------------------------	----------------------------------

【 班 編 成 】

第一班

	横井 克己
	新田嗣治朗
リーダー	麻生 正人
	東方 満子
	中沢志津子
	玉木 恵子
	向 通子
サブリーダー	桑原 憲一
	中 静子
	野上 晶子

部 屋 割	横井、新田 シングル
	麻生 - 桑原
	東方 - 向
	中沢 - 玉木 (恵)
	中 - 野上

第二班

リーダー	玉木 誠
	馬場 良子
	鍛治 協子
	太田 幸子
サブリーダー	下出 健二
	土田 博澄
	千村 尚司
	川越 正代

部 屋 割	玉木 (誠) - 下出
	馬場 - 鍛治
	太田 - 川越
	土田 - 千村

第三班

リーダー 堀 妙仙
井出 宝泉
花岡千恵子
小林 慶子
明地志守子
吉田 京子
三根ゆき子
サブリーダー 宮下 一宏
岡江理恵子
井出 好美

部屋割 堀 - 井出(好)
井出(仁) - 宮下
花岡 - 明地
小林 - 吉田
三根 - 岡江

添乗員 木村 幸生

第四班

リーダー 吉井 清
山形紀美枝
堀内 汎子
鎌田 玲
大島 正子
神沢 理江
サブリーダー 小山 雅樹
久保 和子

部屋割 吉井 - 小山
山形 - 堀内
鎌田 - 久保
大島 - 神沢

裏千家青年奉仕隊 レポート
日印文化交流使節

昭和61年4月6日発行

発行責任者 吉井 清

編集者 井出 宝泉 玉木 恵子
向 通子 明地志守子
井出 好美

